

3. ネットで情報を入手する・集めた情報を活用する

電子ジャーナルを読む

ネットで入手できる情報の主要な例として、研究に不可欠な電子ジャーナルの利用について説明します。

電子ジャーナルとは

電子ジャーナルとは、雑誌を電子化し、コンピュータの画面上で読めるようにしたものです。

学内のコンピュータから、インターネットを通して出版社の Web サイトや電子ジャーナルが収録されているデータベースにアクセスし、東京大学が契約している範囲内、あるいは公開されている範囲内で、雑誌の記事を読むことができます。

必要な論文は、印刷、メール送信、ダウンロードして保存するなどの方法により入手可能です。

電子ジャーナルを利用するには

■ 文献データベースからアクセスする

第2章で紹介した文献データベースなどでは、データベースの検索結果画面から、読みたい論文が掲載されている電子ジャーナルにリンクしていたり、直接その論文の全文を見ることができているケースが増えてきています。

データベースの検索結果画面に、「UT Article Link」ボタンが表示された時には、そのボタンをクリックしてみてください。「東京大学学術論文リンク (UT Article Link)」の画面が開き、電子ジャーナルや冊子の所蔵を探すためのリンクが表示されます。電子ジャーナルへのリンク欄の「Article」をクリックすると、直接論文本文を開くことができます。(p.27の図参照)

論文全文へのリンクが無いデータベースの場合は、論文を入手するために、検索結果画面を見て下記の情報をメモしておく必要があります。メモをする代わりに検索結果画面から下記の情報をダウンロードする機能があるデータベースもあります。

この情報が不足していたり間違っていると、入手に手間取りますのでご注意ください。

＜雑誌論文の入手に必要な情報＞

- ・ 論文の著者名
- ・ 論文のタイトル
- ・ 掲載雑誌名
- ・ 巻・号・ページ

■ ポータルサイトからアクセスする

読みたい雑誌が決まっている場合、以下の Web サイトで、その雑誌が電子ジャーナルで利用できるかどうかを確認します。
※OPACで雑誌の所蔵がない場合でも、電子ジャーナルで読める可能性があります。

E-JOURNAL PORTAL

【学内限定】

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ext/ejportal/>

全学で利用できる電子ジャーナルを集めたポータルサイトです。電子ジャーナルを探す入口としてご利用ください。

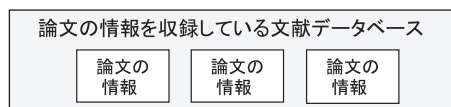
雑誌のタイトルなどで検索すると、読みたい電子ジャーナルが収録されているデータベース名がわかります。そのデータベース名をクリックすると、データベースの検索画面や出版社のジャーナルのサイトに飛びますので、そこで読みたい論文が載っている巻・号・ページを探るか、検索して見つけてください。

なお、E-JOURNAL PORTAL で見つからない場合は、「東京大学で利用できる電子ジャーナル検索」<http://ejournal.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>も検索してください。

■ 直接アクセスする

上記2つのポータルサイトを経由せずに、直接アクセスして利用することもできます。

※上記のポータルサイトを経由していないと利用できないタイトルもあります。



※文献データベースの検索結果から直接全文を見ることができるケースもあります。

UT Article Link をクリック

東京大学学術論文リンク (UT Article Link)

University of Tokyo Article Link
東京大学 学術論文リンク

お探しの論文の全文、または関連のある情報をご案内します

電子ジャーナル利用上の注意

論文情報 / Search Criteria 修正して再検索 / Refine or alter criteria

Articles: Beyond Global Warming Ecology and Global Change
Authors: Vitoisek, Peter
Journal: Ecology (Durham)
ISSN: 0012-9658 Date: 01/10/1994
Volume: 75 Issue: 7 Page: 1981

電子ジャーナルへのリンク Full Text via Online

Coverage Range	Links to content	Resource
01/01/1920 - 31/12/2005	Article	JSTOR Arts and Sciences I Collection
01/08/1991 - 01/12/2000	Article	JSTOR Arts and Sciences I Collection
01/08/1991 - 01/12/2000	Article	ProQuest Agriculture Journals

電子ジャーナルへのリンクがない場合はこちらへ / Additional Options for finding Full Text

冊子の所蔵を調べる / Search OPAC (Library Catalog) [By ISSN / ISBN](#) [By Journal / Book Title](#)
論文のコピーを入手する / Get a Photocopy [Article Request](#) [Book Request](#)

Step 1

電子ジャーナルを探す

Article Journal Resource

論文 雑誌の
トップページ データベースの
トップページ

※Article が表示されていない場合でも、Journal、Resource から論文全文をみつけることができます。

Step 2

電子ジャーナルがない場合
東京大学 OPAC で冊子の所蔵を探す

Step 3

他キャンパスや学外に所蔵がある場合
文献複写を申込む

こんな場合は？

■ 学外から電子ジャーナルを利用したい
出版社によっては、ECCS アカウントをお持ちであれば、SSL-VPN Gateway サービスにより学外からも利用可能な場合があります。詳細は、学内から <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/sslvpn/service.html> のページをご覧ください。

■ ID、パスワードの入力を要求される

論文の全文を見ようとしたときに、ID、パスワードの入力画面が表示されることがあります。ID、パスワードの入力が実際に必要な場合もありますが、システムのトラブルや契約範囲外である可能性もあります。疑問な点がございましたら、図書館までお問い合わせください。

電子ジャーナル利用上の注意

電子ジャーナルの利用にあたっては、東京大学と提供元の出版社等との間で、利用上の取り決めを交わしています。

定められた利用規則や利用条件に違反する行為を行うと、大学全体が利用を停止させられる可能性がありますので、必ず守ってください。内容は出版社等によってそれぞれ異なりますが、原則として以下の事項は禁止されています。

■ 禁止事項

- ・ 東京大学の構成員以外が利用すること
- ・ 個人の学術研究・教育目的以外の使用
- ・ 第三者への流通（ダウンロードしたデータをメールで送付するなど）
- ・ 不正ダウンロード（プログラム等を使用したシステムティックな大量ダウンロードなど）

電子ブックを読む

電子ジャーナルと同様に、図書も電子化されてきています。ここでは、東京大学が契約している電子ブックについて紹介します。

電子ブックを利用するには

東京大学が契約している電子ブックを紹介합니다。いずれも、電子ジャーナルと同様に、学内のコンピュータからインターネットを通してアクセスします。

eBook (NetLibrary)

【学内限定】

<http://www.netlibrary.com/>



eBook (NetLibrary) では、世界の主要出版社や大学出版局が発行した書籍が提供されています。学術書、専門書だけでなく、一般書、戯曲、小説なども数多く収録されています。

東京大学が購入したタイトルと無料提供のタイトルを合わせて、約 4,000 タイトルの電子ブックが利用可能です。

学外からも利用したい場合は、事前にアカウントの作成が必要です。学内から上記 URL にアクセスして、画面上で必要な情報を入力するとアカウントを作成できます。

SpringerLink

【学内限定】

<http://www.springerlink.com/>

SpringerLink では、Springer 社が発行した電子ブックが提供されています。

Lecture Notes や、Landolt などが利用可能です。



Wiley InterScience

【学内限定】

<http://www.interscience.wiley.com/>

Wiley InterScience では、John Wiley & Sons 社が発行した電子ブックが提供されています。



電子ブック利用上の注意

電子ジャーナルと同様に、電子ブックについても、禁止事項に注意してご利用ください。禁止事項は p.27 を参照してください。

図書館サービスを利用する

すべての雑誌・図書が電子化されている訳ではありませんので、電子ジャーナル・電子ブックで見つからなかったら図書館の蔵書も十分に活用しましょう。ここでは、Web で利用できる図書館サービスを紹介します。

e-DDS サービス

e-DDS サービスとは、文献複写の申込から閲覧までを Web 上で行うことができます、東京大学附属図書館のサービスです。

このサービスを利用するには、事前に利用申請が必要です。

利用申請の方法や利用条件、料金支払方法等については、所属の部局の図書館・室にお問い合わせください。

【手順の概要】

- 読みたい雑誌が電子ジャーナルで入手できなかったら、OPAC で雑誌の検索をしてください。
- e-DDS サービスの対象となる雑誌には、OPAC の検索結果詳細画面で「e-DDS」というボタンが表示されます。
- 「e-DDS」ボタンをクリックし、ID・パスワードによる利用者認証の後、申し込み画面で必要な情報を入力して申し込みます。
- メールで、申し込んだ文献の画像が閲覧可能になった旨が通知されてきますので、2週間以内に、学内のネットワークから画像を閲覧してください。印刷は、1部のみ可能です。
- 料金の支払方法として私費を選択した場合は、メールで指定された方法で、至急料金をお支払いください。

※文献の画像ファイルをパソコンなどに保存することはできません。また、第三者に PDF ファイルの URL を通知したり、ファイルまたは印刷物を配布することは厳禁です。

Web リクエストサービス

Web リクエストサービスとは、下記の各サービスを Web 上で利用することができます、東京大学附属図書館のサービスです。

このサービスを利用するには、事前に利用登録を行ってください。

利用申請の方法や利用条件、料金支払方法等については、所属の部局の図書館・室にお問い合わせください。

【各サービスの概要】

- 貸出中資料の予約
OPAC から貸出中の資料を予約することができます。
- 貸出・予約状況照会
貸出中の資料、罰則状況、予約中の資料の確認ができます。
- 文献複写・貸借申込【要利用申請】
学内／学外へ、文献複写取り寄せ・図書借用を依頼することができます。進捗状況の照会もできます。
- 図書購入申込
購入希望図書の申込や、申込状況の照会ができます。

ASK サービス

<https://libsv.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

ASK サービスとは、図書館への質問を Web 上で送信し、東大の図書館の中で調査回答に最も適した図書館・室からの回答をメールで受け取ることができるサービスです。

図書館の所蔵資料に関する質問や、文献の調べ方、ある事項についての調べ方、データベースや電子ジャーナルの利用方法などについての質問を受け付けています。

引用する・参考文献リストを作る

集めた情報を取捨選択し、自分の論文の中で論拠などに活用する際は、他の研究成果を剽窃したことにならないよう、自分の文章と明確に区別して引用し、出典を明示しなければなりません。

引用の書き方

論文の中で引用箇所を示すには、以下のような方法があります。

■ 「 」 で括って引用する

この点に関する問題として、「……」⁽¹⁾と述べている。

■ 前後に 1 行空け、段落を下げて引用する

この点に関する問題として、次のように述べている。

……
……
……⁽¹⁾

■ ポイントを要約して引用する

この点について……という問題提起がある⁽¹⁾。

いずれの場合も、引用箇所のすぐ後に、⁽¹⁾、⁽²⁾のような一連番号を付け、論文末尾の参考文献リストの番号と対応させます。

あるいは、一連番号ではなく、(山田, 2005) のように、著者名と出版年を () で括って示し、参考文献リストは著者名順に並べる方法もあります。

引用するときの注意点

引用を明示する目的は、参考にした他の研究のオリジナリティを尊重することと、論文の読者に自分の主張を良く理解してもらうことにあります。

この点に留意すると、以下のことに注意が必要であることがわかります。

■ 引用は正確に書く

引用する際は、原文に書いてあるとおり正確に書きます。著者の意図を読み違えないように、原文の文脈から趣旨を正確に読み取ることも必要です。

他人が引用している文章を原文にあらずに引用すること（いわゆる「孫引き」）は、正確性の観点からも避けるべき行為です。

■ 出典の情報は正確に記述する

参考文献リストに挙げた情報（著者名、誌名、巻・号・ページなど）が間違っていると、それを頼りに文献を探そうとする読者に、大変迷惑がかかります。論文自体の信頼性も損なわれますので注意してください。

■ 第三者が参照できる情報を挙げる

論文の読者のことを考えれば、第三者が参照可能で、できるかぎり入手しやすい情報を参考文献として挙げる配慮も求められます。

参考文献リストの書き方

引用箇所での出典の示し方や、参考文献リストの記述方法は、指定された書式に従う必要があります。

分野によって標準的となっている書式もありますが、完全な統一基準が存在する訳ではありません。

右のページに、一例として、科学技術情報流通技術基準からの抜粋を挙げました。この基準はインターネット上で見ることができます。

雑誌に投稿する場合は、それぞれの雑誌に投稿規定があり、その中で書式が指定されていますので、それに従ってください。

参考文献リストの書き方の一例

科学技術情報流通技術基準 (SIST : Standards for Information of Science and Technology)
・ 参考文献の書き方 (SIST 02) (http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/main.htm)

■ 雑誌の1記事

著者名, 論文名, 誌名, 巻数, 号数, 出版年, はじめのページおわりのページ, (言語の表示) (媒体表示)

- 例 (a) 花岡 昌, 戦略的アウトソーシングにともなうシステム監査のあり方について, システム監査, vol. 9, no. 2, 1996, p. 2-10.
(b) 花岡 昌, 戦略的アウトソーシングにともなう..., システム監査, 9 (2), 1996, 2-10.

■ 図書1冊を参照する場合

著者名, 書名, 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, 総ページ数, (シリーズ名, シリーズ番号), (ISBN) (言語の表示) (媒体表示)

- 例 井手文雄, 界面制御と複合材料の設計, 東京, シグマ出版, 1995, 250p, (ISBN 4-915666-27-1)

■ 図書の1章又は一部を参照する場合

著者名, 章の見出し, 書名, 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, はじめのページおわりのページ, (シリーズ名, シリーズ番号), (ISBN) (言語の表示) (媒体表示)

- 例 井手文雄, "3 界面制御の技術", 界面制御と複合材料の設計, 東京, シグマ出版, 1995, p. 12-43, (ISBN 4-915666-27-1)

■ 電子雑誌の1論文

著者名, 論文名, 誌名, 巻数, 号数, 出版年, ページ, (媒体表示), 入手先, (入手日付).

- 例 荒川正幹ほか, Hopfield Neural Network を用いた新しい分子重ね合わせ手法の 3D-QSAR への応用, Journal of Computer Aided Chemistry, vol. 3, 2002, p. 63-72, (オンライン), 入手先 < <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/jcac/3.63> >, (参照 2002-12-03) .

■ Web サイト、Web ページ

著者名, "Webページの題名", Web サイトの名称, (媒体表示), 入手先, (参照日付).

- 例 斎藤彬夫, "DME (ジメチルエーテル) 燃料普及のための提言", 日本機械学会, (オンライン), 入手先 <<http://www.jsme.or.jp/teigb01.htm>>, (参照 2003-02-24).

文献管理ソフト

参考文献リストの作成・管理にかかる労力を軽減するためには、文献管理ソフトと呼ばれるソフトウェアを活用するのも1つの方法です。文献管理ソフトには、

・ 市販されている製品

(例 EndNote、RefWorks)

・ インターネットで無料提供されている製品

(例 Ref for Windows)

などさまざまな種類があります。

ソフトウェアによって使える機能は異なりますが、一般的に、文献管理ソフトを使うと、次のようなことができます。

■ 文献データベースの作成

各種の文献データベースを検索して、得られた情報(著者名、論文名、誌名など)を、文献管理ソフトに取り込み、いわば自分にとって必要な文献だけのデータベースとして保存・管理しておくことができます。

■ 参考文献リスト作成の自動化

文献管理ソフトに保存しておいたデータは、論文の原稿を書いているときに検索して呼び出し、文中の引用箇所に付ける番号と論文末尾の参考文献リストを、自動作成することができます。投稿する雑誌の投稿規定に対応した書式での自動作成も可能です。

論文を発表する

論文を投稿する雑誌を選ぶ際に参考となるデータベースを紹介します。また、論文を広く公開する方法として「オープン・アクセス」について紹介します。

投稿する雑誌を選ぶ

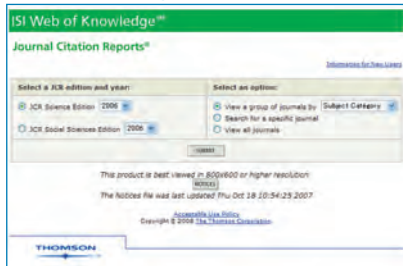
■ JCR を検索する

JCR: Journal Citation Reports -
Web of Knowledge

【学内限定】



<http://isiknowledge.com/JCR>



JCR は、学術雑誌の重要度、影響度を測るための指標を提供する、学術雑誌評価ツールです。

雑誌の評価指標の1つである「Impact Factor」を調べられるだけでなく、学術雑誌の引用関係を知ることができます。

論文の投稿先を決める際、同じ分野の複数の雑誌を比較する判断材料にすることができます。

Impact Factor とは

ある雑誌の一論文あたりの平均被引用数です。特定の1年間に、ある雑誌に掲載された論文が平均的にどれくらい頻繁に引用されているかを示す尺度で、雑誌の影響度を表す1つの指標です。

Impact Factor の算出方法は以下のとおりです。(例：2006 年の場合)

A=2004-2005 年のある雑誌の掲載論文総数
B=A の論文が 2006 年中に引用された総回数
2006 年の Impact Factor=B / A

JCR は、個々の論文や著者の評価ツールではありません。Impact Factor の数値の意味を理解し、使い方にご注意ください。

■ Ulrichsweb を検索する

Ulrichsweb

【学内限定】

<http://www.ulrichsweb.com/ulrichsweb/>



Ulrichsweb は、世界 200 力国の出版社から刊行される逐次刊行物（雑誌、年鑑、会議録、一般誌、学術誌、ニュースレター、新聞）の情報を収録しています。

主題分野やキーワード、査読の有無などの条件を指定して、どんな雑誌があるかを検索できます。

■ データベースの収録対象誌から選ぶ

投稿する雑誌が主要なデータベースの収録対象誌になっていれば、論文が掲載された後、より多くの人に自分の記事を探してもらえる可能性が高まります。

第2章で紹介したようなデータベースの収録対象誌になっているかどうかを1つの判断材料にしたり、データベースを自分の論文のキーワードで検索してみても、関連するテーマの論文が多く掲載されている雑誌を探すのも1つの方法です。

■ 出版社や学会の Web サイトを見る

出版社や学会の Web サイトには、発行している雑誌の投稿規定、その雑誌がカバーする分野、対象読者層などの情報が掲載されていますので、投稿する際の参考になります。

オープン・アクセスについて

より多くの読者に読んでもらうために論文を広く公開する方法として、「オープン・アクセス」を紹介します。

現在、オープン・アクセスと呼ばれる学術論文の新しい提供の仕組みが、出版者、図書館、研究者などの間で、世界的な話題となっています。

オープン・アクセスとは、学術論文を、インターネット上で無料公開し、読者が障壁なくアクセスできるようにする仕組みです。この背景には、学術雑誌の価格高騰によって、研究に不可欠な論文の入手が困難になっている状況があります。

すでに多くの出版者が、査読済みの論文を、出版後に、著者が自分の Web サイトに掲載することや、著者が所属機関の「学術機関リポジトリ（下記コラム参照）」に保存すること（セルフ・アーカイビング）を認めるようになってきています。

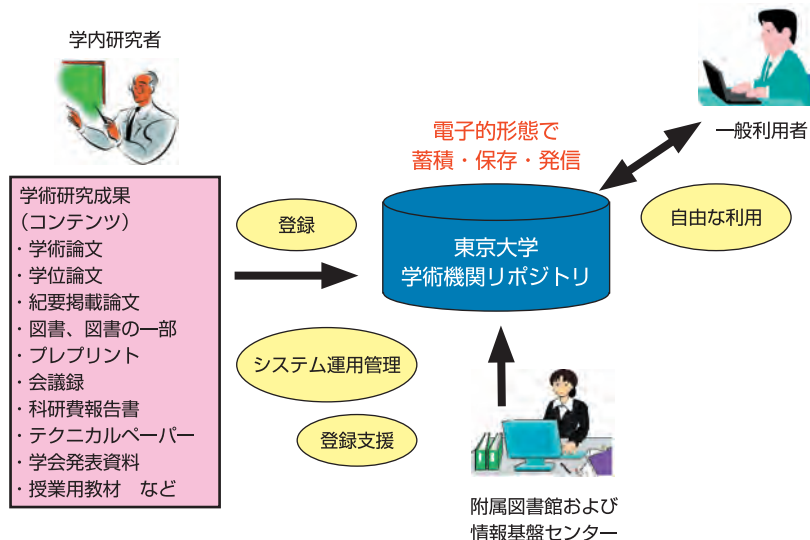
また、初めから、雑誌そのもの（あるいは雑誌の中の一部の論文）を、無料公開して発行するオープン・アクセス雑誌と呼ばれる雑誌も出てきています。

発行後、一定期間を経たものについてオープン・アクセスにする雑誌もあります。

東京大学学術機関リポジトリ <http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

学術機関リポジトリ（Institutional Repository）とは、大学などの学術機関で生産された、学術雑誌掲載論文、学位論文、図書など、さまざまな研究成果を電子的な形態で集中的に蓄積・保存し、学内外に公開することを目的とした、インターネット上の発信拠点（サーバ）です。

学術機関リポジトリは、いわば、インターネット上に置かれた公開保存書庫と言えます。インターネットに接続できる環境があれば、誰でもアクセスでき、研究成果を利用することができます。



世界には、すでに 1,000 を超える学術機関リポジトリがあります。東京大学では、附属図書館と情報基盤センター図書館電子化部門が中心となって、東京大学学術機関リポジトリの構築を進めています。

東京大学学術機関リポジトリへ研究成果を登録し、世界に発信することにより、研究者にとっては、研究成果の可視性を向上させ、研究活動の価値を高めることができます。

4. 付録

検索のヒント

検索のヒントや便利なテクニックをご紹介します。データベースは、収録している情報に合わせてもっとも効率的な検索を行っているため、使えるテクニックが異なり、使用する記号も異なります。初めてご利用のデータベースは、最初に“help”等を確認することをおすすめします。

検索語の入力

■ ストップワード

冠詞 (the, an など) や be 動詞 (be, is, was など)、人称代名詞 (he, she, we, they など) のような単語は、入力しても検索の対象にならないことがあります。

(「フレーズ検索」参照)

■ 化合物や特殊文字の入力

下付き文字やアクセント文字などを、普通の文字に置き換えて入力する場合があります。

例 $H_2O \Rightarrow h2o$

Fürst \Rightarrow furst, fuerst

シソーラスの活用

データベースによっては、同義語、関連語、上位概念、下位概念の用語などを、分野や内容ごとに整理した「シソーラス (thesaurus)」を持つものもあります。決められた統制語を利用することで、効率的に検索をすることができます。

例) 医中誌 Web (p.22 参照)

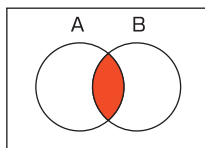


論理演算

複数の検索語を組み合わせることで検索したいときは、論理演算を使います。検索語を結ぶ「論理演算子」は、データベースによって異なるので注意しましょう。

■ AND 検索 (論理積)

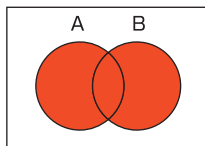
入力した検索語を **全て** 含むものを検索します。



A AND B

■ OR 検索 (論理和)

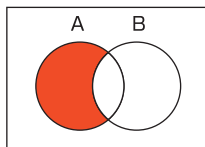
入力した検索語の **少なくともどちらか一方** を含むものを検索します。



A OR B

■ NOT 検索 (論理差)

入力した検索語の **一方を含み一方を含まないもの** を検索します。



A NOT B

論理演算の優先順位

AND 検索、OR 検索、NOT 検索を組み合わせるときは、論理演算の**優先順位**に気をつけましょう。

論理演算の優先順位を NOT→AND→OR の順とするデータベースや、検索欄に入力した順とするデータベース、() を使って優先順位を指定できるデータベースなどもあります。

例 A NOT B AND C OR D
(A NOT B) AND (C OR D)

近接演算

複数の検索語の位置関係を指定します。AND 検索をした場合、入力した検索語の位置が離れてすぎているものもヒットしてしまい、思い通りの検索結果が得られない場合があります。

近接演算を利用すると、検索語が出てくる順番や検索語間の語数を指定することができます。「近接演算子」はデータベースによって異なるので注意しましょう。

例 A SAME B , A W/s B
⇒同一センテンス内

A W/n B , A NEAR/n B
⇒最大 n 語以内

フレーズ検索

複数の検索語をフレーズとして検索する方法です。ストップワードを含む文字列を検索する際にも活用できます。

そのまま入力する場合や、“ ” を使う場合があります。

例 information literacy
“information literacy”

部分一致検索（トランケーション）

変化が予想される検索語は、変化する文字列の部分に「ワイルドカード」と呼ばれる記号（* , ? , \$ など）を入力します。

■ 前方一致 gene*
⇒ gene, genes, generation

■ 中間一致 *sea*
⇒ sea, seat, disease, undersea

■ 後方一致 *net
⇒ internet, cabinet, planet

■ 語中変化 behavior\$r
⇒ behavior, behaviour

部分一致検索の活用例

参考文献表を読むと、欧文の雑誌タイトルが省略形（略誌名）で書かれている場合があります。このような場合、「**前方一致**」のテクニックを使えば、フルタイトルがわからなくても検索できます。

例 参考文献リストに J. Biol. Syst. と書かれた雑誌を、東京大学 OPAC で探す場合
【入力例】

Jo* Biol* Syst*

このように入力すると、JOURNAL OF BIOLOGICAL SYSTEMS というフルタイトルを知らなくても探すことができます。

略誌名は、いくつかの決められた方法に従って省略されていますので、自分の論文で利用する際にはご注意ください。

※東京大学 OPAC では、前方一致検索は1文字だけではできません。この例では、Jは JOURNAL の略だと予想して、JO*としました。

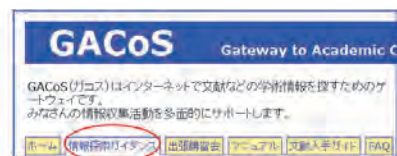
カスタマーサポート

情報基盤センター学術情報リテラシー係では、講習会の開催、教材の配布・公開など、情報検索のサポートメニューをご用意しています。

情報探索ガイダンス

情報基盤センター学術情報リテラシー係では、データベースを使った情報検索に関する講習会を実施しています。

スケジュールや内容については、GACoS (p.25) の「情報探索ガイダンス」ページをご覧ください。



「情報探索ガイダンス」タブをクリック

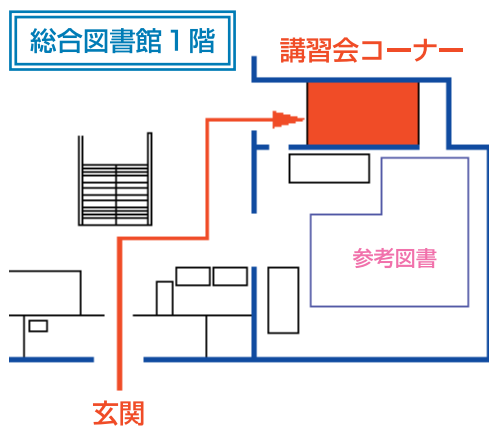
講習会は予約不要ですので、お気軽にご参加ください。(コースによっては、要予約の場合もあります。)

■ 出張講習会

ご希望に合わせた内容、日時で研究室までお伺いします。授業やゼミなどで、ご活用ください。

講習会コーナー 案内図

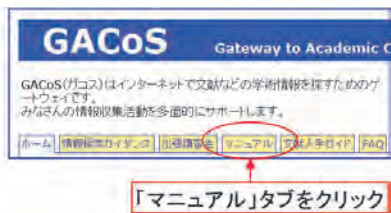
講習会コーナーは、総合図書館 1 階、玄関を入って右奥にあります。



オンラインマニュアル

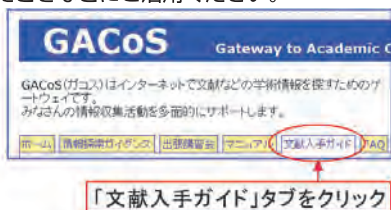
東京大学で利用できるデータベースのマニュアルを公開しています。

自分の研究活動に合ったデータベースが見つかったら、ぜひマニュアルも活用してください。



オンラインサポート

以下のコンテンツは、学内・学外のどちらからでも利用可能です。情報検索に困ったときなどにご活用ください。



メールマガジン「Litetopi」のご案内

データベースに関するニュースや、講習会のご案内などをメールでお知らせします。

お申込みは、学術情報リテラシー係 (literacy@lib.u-tokyo.ac.jp) までご連絡ください。

リーフレット

東京大学で利用できるデータベースについて、特徴や検索方法を紹介しています。それぞれ、日本語版・英語版をご用意しています。

各図書館・室にて配布しています。



【リーフレット メニュー】

- ・ 目的に合ったデータベースを探すには？
(GACoS) / 複数のデータベースを横断検索するには？ (東京大学学術論文横断検索 UT Article Search)
- ・ 図書館の本や雑誌を検索するには？ (東京大学 OPAC)
- ・ 自宅からデータベースや電子ジャーナルを利用するには？ (SSL-VPN Gateway サービス)
- ・ 雑誌論文を入手するには？ (E-JOURNAL PORTAL ほか)



文献表に出てくる略語一覧

注や文献表では、繁雑さを避けるために略語を使用することがあります。なお、類似の意味でも利用方法が異なる場合がありますので、利用する際にはご注意ください。

略語	完全形	意味
Ann.	Annales	年報、紀要
Annu.	Annual	年報、年鑑
anon.	anonymous	作者不詳の、匿名の
app.	appendix	付録
Arch.	Archives	記録集
art.	article	論文、記事
Aufl.	Auflage	版
Bd.	Band	巻
Beil.	Beilage	追録、補遺
Bull.	Bulletin	会報、報告、紀要
c., ©	copyright	著作権
c., ca.	circa	約、略
cf.	confer (= compare)	比較、参照、参照せよ
ch., chap.	chapter	章
col.	column	欄
comp.	compiler	編纂者
	compiled by ~	～により編纂された
conf.	conference	会議
corr.	correction	校正、訂正版
d.	died	没
Diss.	Dissertation	学位論文
do.	ditto	同前
doc.	document	文書、書類
Einl., Einleitg.	Einleitung	序論
ed.	editor	編（集）者
	edition	版
	edited by ~	～により編集された
e.g.	exempli gratia (= for example)	例
enl.	enlarged	増補された
et al.	et alii, et aliae (= and others)	およびその他
etc.	et cetera (= and so on)	など
ex.	exanple, example	用例
fac., facsim.	facsimile	複写、複製
fasc.	fascicle	分冊
fig., figs.	figure (-s)	図、図解、挿絵
front.	frontispiece	とびら、口絵
Hft.	Heft	分冊、号
Hg.	Herausgeber	編者
ibid.	ibi'dem	前掲誌、同誌

id.	idem	同上、同書
i.e.	id est	すなわち
ill., illus.	illustration	挿絵
inc.	including	含む
	incorporated	組み込まれた
inf.	infra	下に、以下に
intro., introd.	introduction	序文
J., jour.	journal	雑誌、学会誌
l., ll.	line (-s)	行
l.c., loc.cit.	loco citato	上記引用文中に
m.s., mss.	manuscript (-s)	原稿、写本
n., nn.	note (-s)	注釈
n.d.	no date of publication	出版年記載なし
no.	number	号
n.p.	no place of publication	発行地記載なし
n.s.	new series	新シリーズ
NS	New Style	新暦
op.cit.	opera citat	前掲（引用）書に
p., pp.	page (-s)	ページ
par.	paragraph	節、段落
pl.	plate	図版
	plural	複数の
pref.	preface	序文、前置き、はしがき
proc.	proceedings	議事録、会報
pseudo.	pseudonym	雅号、ペンネーム
Pt., pt.	part	部、部分、分冊
pub., publ.	publisher	出版者
	publication	出版物、逐次刊行物
	published by ～	～の出版
rev.	review, reviews	評論誌
rpt., repn.	reprint, reprinted	重版、翻刻
sec., sect.	section	節、段落、欄
ser.	series	双書、シリーズ
supp.	supplement	補遺
tr., trans.	translator, translation	翻訳
trans.	transaction	会報、紀要
v., vid.	vide	～を見よ
viz.	videlicet	すなわち
v., vol., vols.	volume (-s)	巻
Z.	Zeitschrift	雑誌

データベース、電子ジャーナルに出てくる用語一覧

データベースによって、使える機能や用語が異なりますのでご注意ください。ご利用の際は、それぞれのデータベースの“help”を見ることをおすすめします。

用語	意味
abstract	摘要、要約
address, affiliation	著者などの所属機関
alert	あらかじめ設定した条件に合う情報が搭載されたとき、メールなどで知らせてくれる機能。例として以下のようなアラートがある。 ・登録した雑誌の新しい号が搭載されたことを知らせる。 ・登録した検索条件に合致した論文が追加されたことを知らせる。 ・指定した論文が他の論文に引用されたことを知らせる。
archive	電子ジャーナルサイトなどで、過去の巻・号リストを示す場合がある。
browse	情報の一覧表示から、必要な情報を探す方法。
citation	引用、引用文
(table of) contents	目次情報
export	「文献管理ソフト（p.31 参照）」などに適応した形式で情報を出力すること。検索結果を保存する際に表示されることが多い。
full text	全文、全文表示
help	データベースの概要や、検索方法が表示される。新しいデータベースを利用する際や検索がうまくいかない場合には、helpを確認するとよい。「tips」などと表記されることもある。
HTML	論文のフルテキストなどを閲覧する際に提供される表示形式のひとつ。文章中にリンク機能が付いていることもある。
in press	雑誌に受理されたが、まだ冊子体で発行されていない論文。「Early view」「Online First」などと表記されることもある。
issue	第…号。「back issues」は、電子ジャーナルサイトなどで、過去の巻・号リストを示す場合がある。
log out/log off	セッション終了時にクリックすることで、検索履歴などの個人情報を保護することができる。また、同時アクセス数の制限があるデータベースの場合には、ログアウト後、次の利用者が利用できるようになる。「sign out」「sign off」などと表記されることもある。
PDF	論文のフルテキストなどを閲覧する際に提供される表示形式のひとつ。紙媒体の雑誌と同じレイアウトで閲覧することができる。閲覧用ソフト「Adobe Reader」のインストールが必要。
register	クリックすると、ユーザ登録画面が表示される。
save to file	パソコンや電子媒体（フロッピーなど）に情報を保存すること。検索結果や電子ジャーナルを保存する際に表示されることが多い。
sort	検索結果を並べ替える機能。
summary	概要、要約
volume, vol.	第…巻

ネットでアカデミック

発行日 2009 年 3 月
編集・発行 東京大学情報基盤センター 図書館電子化部門
学術情報リテラシー係

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 総合図書館 3 階
Tel 03-5841-2649
Email literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
URL <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/>

